

区民文教常任委員会（1月30日） 質疑内容

※この記録は、委員会を傍聴した職員が質疑を記録したものであり、口述筆記ではありません。公式な委員会記録ではありません。

質 問 内 容	答 弁 趣 旨
<p>① 全常任委員会に同様の説明をしてもらっている。区民文教常任委員会としては、町場からこの改革に不安の声が寄せられていることを伝えたい。先月、各地域に担当部長・担当課長が説明に行っている。約半数の職員を支所から本庁に引き上げるにもかかわらず、サービスは維持するという説明には納得できない。区として、地域に説明し、納得は得られたという認識か。</p> <p>② 昨年第4回定例会の補正予算は多数会派の賛成で可決された。その際、補正予算で対応し、12月から契約する必要があるという説明だった。しかし今月まで契約に至っていないと聞いている。一般企業であれば、これだけ大きい社内稟議は、きちんと筋道を立て、精査して、確認が</p>	<p>① 現在も各町会・自治会へ説明に回っている。これまで説明の後先や不十分なところについては、既に総務常任委員会でも、DX推進・行財政等対策特別委員会でも、然るべき立場の者からお詫びを申し上げている。私自身も、不十分であったと認識している。町会・自治会には順次説明しており、引き続き丁寧に対応していく。</p> <p>② 他の常任委員会でも出た意見ではあるが、現在それぞれの分野での検討状況を示している。本来このような方向性があった上で、補正予算を進めるべきであったという意見は否定できない。これまで説明が不十分であったことについては、既に総務常任委員会でも、DX推進・行財政等対策特別委員会でも、然るべき立場の者からお詫びを申し上げている。区役所改革自体については、区全体で取り組んでいるものである。区役所改革担当だけではなく、全ての管理職・職員の思いで進めており、全庁で一丸となって関係する方々に理解を得て進めるものである。待ったなしの状況であるので、愚直に地域に説明し、理解を得ていくことが我々の使命であると認識している。</p>

区民文教常任委員会（1月30日） 質疑内容

※この記録は、委員会を傍聴した職員が質疑を記録したものであり、口述筆記ではありません。公式な委員会記録ではありません。

取れてから進めるもの。先に補正予算の議決という稟議だけ通している状況。詳細はこれからでは、町場に説明ができない。我々としては、きちんとシミュレーションをした上で進めるべきと考える。支所内の空いたスペースをどう使うかは、区民にまだ説明できていない。また、契約にも至ってない。各委員会で我が会派から伝えているが、立ち止まって区民の理解を得てから進めるべきと思う。職員アンケートも、半数以上は答えていない状況。職員も把握していないという意見も漏れ聞こえている。慌てて進めて良いことはない。立ち止まって考え直してほしい。

- ③ 我々も改革自体をやめるようにと言っているわけでない。改革でなく改悪にしないように、区

区民文教常任委員会（1月30日） 質疑内容

※この記録は、委員会を傍聴した職員が質疑を記録したものであり、口述筆記ではありません。公式な委員会記録ではありません。

民のために、よりよくするための改革であるということ示してもらいたい。（要望）	
--	--